

平成 20 年度 「市長と語ろう会」

テーマ ～ 現場から見た遠野市政 ～

「 全 体 報 告 書 」

～ 市民の皆さまからの意見・提言集～

平成 20 年 9 月
遠野市政策企画室

平成 20 年度「市長と語ろう会」の開催について

- 1 タイトル **平成 20 年度「市長と語ろう会」 ～現場から見た遠野市政～**
- 2 趣 旨 「効率的で開かれた行政推進のまちづくり」を推進するため、市長が地域等に出向き、市民から意見・提言を聴き、今後の市政に反映させて行くとともに、市民の市政参画意識の醸成を図りながら市民と行政の協働によるまちづくりを進める。
- 3 今年度開催のねらい
現場、それぞれの分野で「黙々と」、「汗して」また「ひたむきに」取り組んでいる方、第一線で活躍している市民から、市政に対する意見・提言を頂く。分野ごとに懇談会を開催する。

4 開催分野と開催日程

| | テ - マ | 日 時 | 会 場 | テーマ担当課 |
|----|--|----------------|----------------|---------------|
| 1 | 農業 「畜産業の担い手の皆さん」 | 7月2日(水)19:00～ | AST | 農業活性化本部 |
| 2 | 農業 「林業の担い手の皆さん」 | 7月3日(木)13:30～ | 森林総合センター2階会議室 | 農林振興課(林業振興担当) |
| 3 | 農業 「多品目栽培による所得向上」 | 7月4日(金)19:30～ | AST | 農業活性化本部 |
| 4 | 福祉 「障害福祉施設の第一線で活躍している方」 | 7月 7日(月)19:00～ | 健康福祉の里 会議室 | 福祉課 |
| 5 | 福祉 「わたしたちが考える健康づくりとは」 | 7月10日(木)18:30～ | 健康福祉の里栄養指導室 | 保健課 |
| 6 | 福祉 「高齢者福祉施設等で働く皆さん」 | 7月16日(水)19:00～ | 遠野長寿の郷 | 長寿課 |
| 7 | 教育 「児童生徒の学力向上と心の教育の充実のための家庭の役割」 | 7月14日(月)19:00～ | 遠野中学校 会議室 | 学校教育課 |
| 8 | 教育 「児童生徒の学力向上と心の教育の充実」 | 7月15日(火)18:30～ | 遠野中学校 会議室 | 学校教育課 |
| 9 | 教育 「より良い学校にするために地域がはたす役割」 | 8月7日(木)19:00～ | 遠野小学校 会議室 | 教務課 |
| 10 | 文化 「遠野遺産を活用した地域づくり」 | 7月28日(月)19:00～ | あえりあ遠野「やまぼうし」 | 文化課、地域生活課 |
| 11 | 文化 「郷土芸能と芸術文化の振興のために」 | 7月30日(水)19:00～ | あえりあ遠野「やまぼうし」 | 文化課、社会教育課 |
| 12 | 交流 「働きやすい遠野市ですか？」誘致企業転入者等 | 7月22日(火)15:00～ | あえりあ遠野「語り部ホール」 | 産業振興課(企業立地担当) |
| 13 | 交流 「定住しやすい環境とは」 | 8月 4日(月)19:00～ | 遠野市役所 庁議室 | ふるさと定住推進室 |
| 14 | 環境 「地域における環境保全活動」 | 8月 1日(金)19:00～ | 上宮守地区多目的集会施設 | 環境課 |

テーマ 農業 「畜産業の担い手の皆さん」

開催日時 平成 20 年 7 月 2 日(水)午後 7 時～8 時 30 分

開催場所 「AST 2 階会議室」

作成者 農業活性化本部 沖 浩一

市民出席者（敬称略）

| | 氏 名 | 性 別 | 町 名 | 職 業・役 職 等 |
|---|--------|-----|-----|--------------|
| 1 | 小松 孝行 | 男 | 小友 | 専業(肉用牛:企業預託) |
| 2 | 佐々木 鉄也 | 男 | 小友 | 複合(肉用牛、水稲ほか) |
| 3 | 菊池 和也 | 男 | 松崎 | 兼業(肉用牛、水稲ほか) |
| 4 | 菊池 義仁 | 男 | 松崎 | 兼業(肉用牛、野菜ほか) |
| 5 | 菊池 昌茂 | 男 | 宮守 | 専業(肉用牛繁殖、馬産) |
| 6 | 山尾 克廣 | 男 | 遠野 | 専業(肉用牛一貫) |
| 7 | 入倉 康彦 | 男 | 青笹 | 専業(酪農家) |
| 8 | 長瀬 国博 | 男 | 宮守 | 兼業(肉用牛) |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 | |
|---|---|--|---|--|
| 1 | 繁殖肥育の一貫経営をしているが飼料高の影響で今年から肥育を減らし、繁殖が主になった。肥育のほうは飼料経費が高い。 | 皆さんから経営の概要や意見をいただいた、やはり問題として共通しているのが販売価格の下落と飼料等の生産経費高等である。値上げが続いているので、どう対処していくか。 | 生産費の高騰について 飼料、燃料、資材の価格高騰は農業経営に打撃を与えている。 これは国内すべての業界に共通する課題であり、価格面での生産支援策について、国県などの動向を見ながら対応する。 公共牧場の利用による生産費軽減が有効であり、牧養力にはまだゆとりがあることから、放牧の利用をお願いしたい。現状でも遊休牧区を利用し、遠く関東からの管外預託者もあり、これは放牧飼養が与える経営効果の表れといえる。 | |
| 2 | 60～70 頭いたが、生産調整や飼料が高くなり頭数を減らした。 | | | |
| 3 | 就農 5 年目、馬主体の経営から和牛生産に切り替えている。もっと増頭したいが、生産費の高騰に困っている。 | | | |
| 4 | 企業預託牛が 100 頭いる。飼料価格の高値が今後どれくらい続くのか不安。 | | | |
| 5 | 農業は生活自体が生産現場にあり経費を切り離せるものではない、当然生活費も高騰しており、生産経費全体を見なければ対策にならない。 | | | |
| 6 | アスト事業で放牧場を整備し、専業も考えた。その矢先に子牛相場下落があった。 | | | 子牛相場下落について BSE 問題による米国産牛肉の輸入規制以降、国内の食肉の不足により、牛、豚及び鳥等の全ての食肉相場が高値推移してきたが、肥育農家の生産費高騰による買い控えが原因となっている。これも、購買の相手方の問題が大きいと、国策レベルの |
| 7 | 子牛価格下落に直面。宮守川上流で寺沢の粗飼料生産の受託を受けている。 | | | |

| | | | |
|----|--|--|---|
| | | | 対策がなされない限り解決され難い。 また、長期的には、生産経費を落とすことにあわせ、選ばれる牛(高値取引)を作らなければならない。 選ばれる牛(血統×飼養管理×ロット(安定数)) |
| 8 | 放牧料の値上げに対して、利用する農家としては高く感じる。 | | 既に市としても助成措置を講じている、生産経費が高騰する中、放牧のメリットは大きくなっており更なる利用の促進を図る。 |
| 9 | 現在、一部の粗飼料は自給しており、購入型の TMR を与えている。食品残渣(パン屑)も活用している。 飼料を公社で安く供給するシステム、TMR センターなどを作れないか。 | 生産物に責任を持つ、また食品残渣の利用など環境に配慮した生産で低コスト化、実例としてあることがわかった。事業化についても検討してみたい。 葛巻町では粗飼料生産コスト削減のための事業を行っている。遠野の畜産振興公社でもやれることはある。 | 安定的な飼養管理をする上で TMR(完全混合飼料)の有効性は認められている。 デントコーンの鳥獣害対策、利用者の絞込み、製造技術(品質)の確保が課題となってくる。今後、導入の可能性について検討する。 |
| 10 | これからの農業は六次産業という考え方が必要。第一次×第二次×第三次産業と生産者と消費者のつながりを大切にしたいという思いから、ジェラートを作り、市内イベントや産直かみごうで売り始めた。 | | 六次産業について 生産・加工・流通、販売、これらを農家が実践することによるコスト削減を表現した言葉である。消費者に努力や付加価値が認められ、選ばれる物を作るには消費者とのつながりは重要である。各地域の成功事例を元に検討する。 |
| 11 | 自分の親は高齢であり、分娩などの高負荷な作業は出来ないが日常の管理は出来る。 | | 高負荷作業を取除けば高齢者も活躍できることから、粗飼料生産や分娩委託等は重要課題として認識している。 公共牧場の高機能化の中で検討する。 |
| 12 | 企業預託牛が 90 頭いる。企業預託なら毎日お金が得られて酪農の感覚に近い。 | 相場に影響されないにくい企業預託は新しい農業の形の1つとして考えてかなければならない | 導入牛の繁殖障害など生産リスクを抑えた企業預託による多頭経営は、農業の新しい形のひとつとして認識している。 今後は市内誘致企業とも意見交換を行い、基盤を生かした企業連携についても検討していきたい。 |
| 13 | 畜産を志す若者がどうして少ないのか、それに向き合って解決しなければ意欲喚起だけではもう歯止めはかからない。 | 若者の志を折らない施策を持たなければならぬ | 今後、意見交換等を実施し、意見を事業計画に反映させていく。 |
| 14 | 若い人がいないわけではない。小友の鷹鳥屋地区の若い農業者はまとまりがある。情報の輪を作って、必要に応じて情報交換をしていくことが大切だ。 | 情報の共有は何の場面においても重要と認識している。 すばらしいこと。 | |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 15 | <p>自分は人工授精資格を取り、去勢も自ら実施している。頭数が多いため経費的な効果は大きい。</p> <p>技術面から見ても畜産では事故がつきもの、特に分娩での事故が怖い、事故による損失を考えれば真剣にならざるを得ない。漫然と牛飼いをしている人が多い。一番は農家の意識。</p> | <p>医療団体や、情報を流す団体が必要。</p> | <p>家畜飼養の多頭化を進めるには、技術、経理、リスク管理、これらに自ら積極的に取り組まなければならない。</p> <p>情報を整理し、研修と交流の機会を作り、特に若い担い手のつながりを作りたい。</p> |
| 16 | <p>交流を目的としたモデル農場を作って、観光客に見てもらうことも必要。畜産業に対する理解が深まり、消費拡大につながる。</p> | | <p>消費者に対するアピールと交流、また地域のブランドイメージとして、必要性は感じている。特に牧場、畜産地帯をアピールするものが無く、今後独自ブランド創出、建設費を含めた検討が必要</p> |
| 17 | <p>遠野というブランドを大いに利用すべきだ。</p> <p>ブランドはあるが規格どころか商品がない。</p> <p>農産品が無ければ農村をアピールできないのではないか。</p> | <p>遠野というブランドでセールスをして、道を見出すことには、非常に可能性がある。</p> | <p>現状では、単に「遠野産」という領域であり、独自の規格など、消費者に説明できるものを整備して行く必要性を感じている。</p> |
| 18 | <p>離農による遊休地が問題になっているが放牧によって解消できるということはわかる。土地の利用集積は行政に期待したいところ</p> | | <p>土地の利用集積、団地化について</p> <p>機械的な効率化と生産性を上げるには、団地化が条件となることは認識している。</p> |
| 19 | <p>休んでいる田んぼでの放牧は簡単ではない、一定の面積が団地化されていないと効率が悪い。</p> | <p>遊休地があるのに、環境を活かしきれていない。</p> | <p>遊休農地対策にも直結する問題であることから、関係機関と協議しながら対策を進める。</p> |
| 20 | <p>放牧地の草地を改良すべきだ。育ちすぎて硬くなった草は食べない。</p> | | <p>市内公共牧場の草地および施設は老朽化が進み、以前から改良の要望はあった。現在、遠野市畜産振興公社を中心に東北農政局が調査事業を実施しており、本年度は2年目にあたる。</p> <p>単純な改良ではなく、公社自体の機能向上を図り、より強力な生産支援を出来る体制を確立する。</p> |
| 21 | <p>兼業のため家に誰もいないことがあり、牛の発情を見逃してしまう。放牧地ならば担当者に発情を知らせてもらえる。</p> | | <p>畜産公社放牧部が、現在行っている、単なる親牛の夏季放牧受託から、分娩、哺乳、育成などの各飼育ステージにおいても受託が可能になることで、農家が安心して生産に取り組むことが出来るような体制を整えて行く。</p> |

テーマ 農業 「林業の担い手の皆さん」

開催日時 平成20年7月3日(木)午後1時30分～3時10分

開催場所 「森林総合センター2階会議室」

作成者 産業振興部農林振興課課長補佐(林業振興担当) 佐々木徹

市民出席者(敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 町名 | 職業・役職等 |
|----|--------|----|------|----------------|
| 1 | 鈴木 廣志 | 男 | 附馬牛町 | 早池峰原木椎茸生産組合長 |
| 2 | 菊池 英雄 | 男 | 宮守町 | 大上戸草椎茸生産組合長 |
| 3 | 水越 正宏 | 男 | 宮守町 | 大上戸草椎茸生産組合 |
| 4 | 多田 宏幸 | 男 | 宮守町 | 遠野地方森林組合 |
| 5 | 杉本 喜一郎 | 男 | 青笹町 | (株)昭林遠野営業所 |
| 6 | 菊池 長春 | 男 | 青笹町 | 菊定農林社長 |
| 7 | 小黒澤 清政 | 男 | 松崎町 | (協)遠野グルーラム工場長 |
| 8 | 三光楼 二男 | 男 | 青笹町 | 遠野木材加工事業(協)工場長 |
| 9 | 佐々木 勇二 | 男 | 宮守町 | 鱒沢製材所専務 |
| 10 | 見方 芳勝 | 男 | 附馬牛町 | 木材搬出業者(馬搬) |
| 11 | 六十刈 隆美 | 男 | 松崎町 | 市森林監視員 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 森林整備地域活動支援交付金には下刈りが対象にならない。山づくりの原点は下刈りである。除間伐の前に下刈りし、日光を木の根元に当てることである。 | 除間伐の大切さはいろいろな場面で話している。除間伐の前に、下刈りに力を入れるべきということが課題として出てきた。森林づくり県民税の関わりで手入れの部分を考えてみる。 | 山づくりにおいて下刈りの重要性は理解する。森林整備地域活動支援交付金には下刈りは対象にならないが、森林整備事業では、植栽して5年(カラマツは4年)までは、下刈りは補助対象になる。 |
| 2 | しいたけの原木が不足していることから、原木の対策をしてほしい。 | しいたけの原木を提供できれば、しいたけ産業がまた良くなることにつながるわけである。 | 原木の供給体制を検討する。 |
| 3 | しいたけの原料(原木)確保に悩んでいる。林道はよく整備されている。 | | |
| 4 | 森林所有者が自分の山の境界をわからない人がいる。山の手入れのほかに山の境界確認が必要。林業従事者の育成には収入の安定が必要。このままでは10年後には山で稼ぐ人はいなくなるのではないかと。 | 山林所有者、後継者といってもなかなか大変なので、山林に対して公的な関与をしてダイナミックなシステムを作る必要があるのではないかと議論がある。 | 山主の山に対する関心が薄れ境確認ができなくなりつつある状況は憂慮される。民有林については今後、森林組合と連携し山の手入れの集約化ができないか検討する。そのことにより山の仕事が安定的に確保され、林業従事者の安定にもつながる(4・5共通) |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 5 | 木材価格の低迷等で、山主は山に手をかけられないのが本音。山が結構荒れている箇所がある。造林業が今後どうなっていくのか。 | 木がかぶっているところも手入れをすれば良くなる。 | |
| 6 | 山で働く人をどんどん増やしていったらいい。林業にも地産地消が必要。 | 分かりました。 | 林業従業者数の増加と地産地消の必要性は理解する。 |
| 7 | 市と木工団地内で協力し合いながら販売等を進めていきたい。 | 木材需要の拡大を広域振興局、県に要望したら、県にも聞き入れていただき本格的に取り組むことにしたので、今後も努力していきたい。 | 森林のくに遠野・協同機構が中心となり、各事業体と連携し今後とも販売促進活動に努めたい。 |
| 8 | 飛び腐れにより遠野産材の杉材の材質が非常に落ちている。若い人が山に対して魅力を持てるための施策を考えていかなければならない。例えば森林保護法とか、遠野市で条例をつくって、山に全く熱意のない林家に対しては、条例に基づいて、金は出させないで、強制的に山をきれいにすることをすれば、林業も仕事ができますし、山がきれいになるのではないかと。 | 公が権力的に入るのではなくて、「じゃあ、手入れしますから、任せてください」というようなものがあるといいような気がする。双方向の中でシステムをつくっていく。幅広くやってみると何が何だか分からなくなる。里山美林プロジェクトと合わせながら、何か考えてみるのもいいかもしれない。 | (4の回答に加えて) 県民税の活用について、来年度に向け新たなモデル事業を提案したい。 |
| 9 | 飛び腐れが入っている木は製品にならないし市場に出荷すると信用をおろす。林業従業者の数が減っていくと事業に支障が出るので不安である。観光物産展で遠野の家をPRするとか、Iターン者等への家を建てる場合の補助はどうか。口コミも効果がある。 | Iターン者等の人たちに支援するしくみをつくるということ。 | ターン者等新規定住者に対する支援策を検討する。 |
| 10 | 遠野のほうでも私を使ってもらいたい。大船渡では山がさっぱりして見通しが良い。 | 手入れはものすごく大事だと思う。遠野でも森の名手・名人の活躍する場もつくらなければならない。 | 作業道のない所での馬搬の役割は大きい。今後、市有林整備等の際に活用したい。 |
| 11 | 山を見ると緑がきれいだが、実際山に入ると、下草がいっぱいはえていたりして全然印象が違う。松くい虫は予防が大事なので、森林の整備が大きい。木工団地に個人で来ても対応できる窓口があればいい。 | 家を建てたい人が、個人で木工団地に来ても対応できるような窓口は大事である。 松くい虫については、深刻に考えていかなければならない。 | 松くい虫対策については、県が中心となりその対応に努めているところである。 住宅相談については、森林のくに遠野・協同機構とリンデンバウム遠野が窓口となり、個人にも対応できる体制を整備する。 |

テーマ 農業 「多品目栽培による所得向上」

開催日時 平成 20 年 7 月 4 日(金)午後 7 時 30 分～9 時

開催場所 「AST 2 階会議室」

作成者 農業活性化本部 沖 浩一

市民出席者（敬称略）

| | 氏名 | 性別 | 住所 | 活動内容等 |
|---|--------|----|-----|---|
| 1 | 山口 勝俊 | 男 | 松崎町 | きゅうり、たらの芽、ヤマブドウ他 JA はなまき遠野地域特産生産部会長 |
| 2 | 佐藤 壽子 | 女 | 宮守町 | 湯屋農家組合(集落営農 たらの芽促成栽培) 組合員の先導的存在 今年からたらの芽生産に関わる方々と「ブロッコリー」と「カリフラワー」の栽培を始める。 |
| 3 | 千葉 カズエ | 女 | 宮守町 | 湯屋農家組合(集落営農 たらの芽促成栽培) 組合員の先導的存在 今年からたらの芽生産に関わる方々と「ブロッコリー」と「カリフラワー」の栽培を始める。 |
| 4 | 白金 恵一 | 男 | 松崎町 | (有)夢大地 鯉農法米(無農薬)や古代米栽培等の生産販売。 ミニトマトアイコや冬作のプチヴェール出荷。 |
| 5 | 菊池 よし | 女 | 小友町 | トルコギキョウやホウレン草等多品目に取り組む。 冬場は、花壇苗を取組む。家族経営協定を締結したことにより、作業の効率も向上。 |
| 6 | 吉田 敦史 | 男 | 青笹町 | 新規就農予定者(青笹町 佐々木新夫宅同居) 現在、農業大学校に通いながら農作業従事 松崎町駒木の山口岩男氏できゅうり栽培の弟子入り中 関東方面から昨年遠野へ移り住み新規就農に向け準備中 |
| 7 | 吉田 美保子 | 女 | 青笹町 | 吉田敦史さんの妻 姉は青笹町の佐々木恵美子氏(ミニトマトあいこジュースで昨年岩手県産業貿易振興協会会長賞受賞)。 |
| 8 | 宮澤 静江 | 女 | 上郷町 | らくらく小菊クラブ 今年から新規栽培グループ 5 名(上郷町中心)で小菊の栽培に取り組んでいる。上郷産直のリニューアルに向け、品揃えの充実を図る。 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 湯屋農家組合では、販売経路と単価の安さの問題はあるが、3 年目になって軌道に乗ってきた。組合員皆で和気あいあい頑張っている。 | 湯屋のみなさんに、花壇整備などの地域活動もしていただいで嬉しい。 | 集落営農のモデルとして期待しているので、是非頑張ってくださいたいし、今後も支援していく。 |
| 2 | 田んぼに鯉を放し雑草の抑制を試みているが、水路に家庭排水が流れており水質が悪いことが気になる。また、気候が今までとは変わってきている気がする。 | 遠野の農業を取り巻く環境問題についても意見を出して指摘していただいで良かった。 | 農業に関する水質保全について取り組んでいく。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 3 | <p>家族経営協定を締結したことにより、家族が変わった。色々やってくれるようになった。花を始めて3年になるがもっと増やしたい。切り花を産直に出したいので、研修をお願いしたい。</p> | | <p>今後とも生産技術に係る研修については、積極的に支援していく。 切り花（小菊等）の研修については、早速取り組む。</p> <p>7/14 北上市、8/1 宮城県実施済</p> |
| 4 | <p>産直かみごうは野菜中心だが、食料品やパン屋を置くようにして売上も伸びた。しかし、2年目で出足が鈍い。らしく小菊クラブでは、やってみて消毒等の手間がかかり決して楽ではないことがわかった。</p> | | <p>小菊クラブでの、みなさんの明るい活動状況は、ASTとしても励まされるところがある。新規参入のモデルとして期待している。 産直での売上に貢献できるよう、技術の指導、販売等に支援を続けていきたい。</p> |
| 5 | <p>新規就農者として情報収集した際、遠野市ホームページでの新規就農コーナーが更新されておらず、新規就農者の受け入れに対する姿勢が見えなかった。 農業大学校での情報交換で、「で・くらす遠野」やアストの話聞き、新規就農者への支援があることを知った。 しかし、遊休ハウスの情報などの提供力が足りない。きゅうりやミニトマトなど、新しく始めた多品種の売り先を探している。</p> | <p>「で・くらす遠野」市民のなかには、夢を持って農業に取り組もうとしている若者の割合が少ない。若い新規就農者には期待をしている。新規就農者の受け入れが、人口減少の歯止めになる。 情報の提供については整備が必要である。 また、遊休ハウスの情報提供は不可能なことではない。再調査をして情報を提供したい。 市としては情報を発信しているつもりだったが、うまく伝わっていないようだ。</p> | <p>新規就農については、当面の資金、生活、住む所、土地、栽培品目、栽培技術等就農希望者により多様なケースがあることから、希望者個々の相談を受け、対応する機関等が連携して支援を行っているのが実情である。意見のとおり最初の相談窓口等が明確になっていない。 希望者が分かりやすい情報提供体制と窓口体制を整備したい。遊休ハウスについては、流動化している個人の資産をタイムリーに把握するのは、困難であるが、把握方法を検討しながら、情報提供に努めたい。 栽培する品種を選定するためには、売り先が確定していることが重要。過去に遊休ハウスのリストを作ったことがあったが、その多くは引き取られた。利用したい人は新たに遊休ハウスを探さなければ見つからないのが実態。 また、インターネット販売は営業コストがかかって難しい。ASTで支援していく。</p> |
| 6 | <p>AST や普及サブセンターにはお世話になっており助けられている。しかし農協は手数料が高い。</p> | <p>湯屋農家組合で仲間ができて、みんなでがんばっていることは素晴らしいこと。所得向上にむけて市やASTができることを考えていきたい。</p> | <p>新規作物の栽培に積極的に取組んでいただいている。その積極性には、敬意を表します。 ASTとしても、支援をしながら一緒になって成功事例を作っていく。</p> |
| 7 | <p>インターネット販売で遠野の紹介に工夫をしている。今年初めたばかりで、まだ反響はわからない。 ホームページは他社に作ってもらった。</p> | <p>ASTでも、遠野テレビとのつながりを活かして、ネットの架け橋事業ができるのではないかな。</p> | <p>ASTでも、ホームページを作成しており、農業者が作成するホームページをリンクするなどして、認知度を高めるよう支援する。</p> |

| | | | |
|----|---|--|---|
| 8 | いいものを作って喜ばれたい、作ったものは必ず売りたいという気持ちがある。 JA は手数料が高いが、産直での販売は売価を自分でつけられるから良い。 | | 販路の開拓も AST の重要課題の一つであり、農業者の思いが叶うよう努力していく。 |
| 9 | 加工品を作りたいが、場所の問題がある。 | | 加工する物にもよるが、過大投資をしないことが大切であり、個々にアドバイスしていく。 |
| 10 | 遠野は産地としてのイメージが薄い。具体的な作物が浮かばない。 | 農業もからませて宣伝し、作物に付加価値をつけたい。 AST の働きも重要。 | 夏作の作物はどこでも作ることができるため、差が出るのは冬の作物なので、検討していく。 |
| 11 | 冬のプチベールという新野菜がある。芽キャベツとケールが合わさったもの。栄養も豊富だが、苗が高い。 | | プチベールについては、冬季作物として一定の需要があるが、爆発的に売れる状況ではない。地道に販売努力をしながら、バイヤー及び消費者への周知及び信頼を得たい。 |
| 12 | 農家の法人化を進めるにあたって、面積の拡大を目標としているが、基盤整備が思わしくない。 | | |
| 13 | 集落営農組合が一つにまとまっている感じがしない。 | まとまりある組合もあれば、まとまりない組合も存在する。地域によっても性格が違う。 | JA 担い手課のコーディネーターを中心に支援をしていく。 |

テーマ 福祉 「障害福祉施設の第一線で活躍している方」

開催日時 平成20年7月7日(月)午後7時～8時30分

開催場所 「健康福祉の里会議室」

作成者 健康福祉部 福祉課 障害福祉係長 阿部順郎

市民出席者 (敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 町名 | 職業・役職等 |
|----|-------|----|-----|--------------------------|
| 1 | 鈴木俊孝 | 男 | 綾織町 | 知的障害者授産施設石上の園 生活支援係長 |
| 2 | 荒井公子 | 女 | 綾織町 | 知的障害者授産施設石上の園 主任生活支援員 |
| 3 | 松田芳輝 | 男 | 遠野町 | 知的障害者授産施設石上の園 作業支援係長 |
| 4 | 畠浩一 | 男 | 遠野町 | 知的障害者授産施設石上の園 作業指導員 |
| 5 | 佐藤牧夫 | 男 | 宮守町 | 身体障害者療護施設高館の園 主任介護職員 |
| 6 | 昆明美 | 女 | 宮守町 | 身体障害者療護施設高館の園 介護職員 |
| 7 | 佐々木勝成 | 男 | 上郷町 | 障害者支援施設『多賀の里』 生活支援員 |
| 8 | 岩淵修 | 男 | 松崎町 | 身体障害者授産施設『遠野コロニー』相談支援専門員 |
| 9 | 松田賢雄 | 男 | 六日町 | 身体障害者授産施設『遠野コロニー』作業支援係長 |
| 10 | 菊池妙子 | 女 | 新町 | 身体障害者授産施設『遠野コロニー』生活支援員 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|--|--|
| 1 | <p>自分は、石上の園に勤務しているが、睦会の事業が拡大していくことに不安を感じている。</p> <p>施設の数や大きさは変わっていないが、サービスが多様化し、本当にこの体制が障害者本人のためになっているか不安なところもある。</p> <p>魅力ある施設づくりもしたいが、業務で手一杯のところもある。若さでしのできた部分もあるが、自身が目指してきた障害者福祉のあり方であるかどうか、最近疑問に思うところもある。</p> | <p>市にとっても、同様のことが言える。</p> <p>施設の大きさが変化しないが、制度対応等の業務が多くなっているとの意見を頂戴した。</p> | <p>国の特別対策事業等の激変緩和措置が講ぜられるなか、さらに自立支援法そのものの見直しも予定されている。</p> <p>市としても、制度の見直しや、施設側の諸課題も含め、関係機関と十分な合意や協議が図れるような仕組みづくりを、自立支援協議会の機能の強化を図りながら進める(1～3共通)。</p> |
| 2 | <p>職場内では、夜勤を一人体制とするかもしれないとの意見もある。</p> <p>自分の夜勤に対する負担は軽減されることにはなるが、利用者にとってはどうなのか疑問に感じるところもある。</p> | <p>作業の効率性とサービス利用者のマッチングや体制についての課題として受け止めたい。</p> | |

| | | | |
|---|---|--|---|
| 3 | <p>施設は4名1部屋となっており、カーテンで仕切ってはいるが、プライバシーもない。自身に置き換えれば、やはり問題である。知的障害の方々はちょっとしたきっかけで喧嘩となり、この人が嫌いとなれば、調整が効かない場合も多い。</p> | <p>宮古市内の施設で起きた事件の例もある。 利用者の人間関係やストレス等も各施設の課題である。</p> | |
| 4 | <p>県で工賃倍増5ヵ年計画により、計画を策定中であるが、月1万円の利益を上げるにしても、単純に利用者80名で80万円の利益増加が毎月必要となる。</p> <p>一方においては、利用者全員が工賃倍増に向けて働きたいというものではない。こうした一律の対応が本当に障害者の自立支援に対応しているか疑問である。</p> <p>利用者本位の施策推進と、施設のマンパワーの確保と合わせ同時に整理すべき課題である。</p> | <p>障害者自立支援制度は、障害者本人の能力に合わせて行うべき施策である。</p> <p>工賃倍増5ヵ年計画は、工賃の増加を希望する方々にとっては、必要な取り組みであるが、一方においては、利用者が余暇時間を楽しく過ごす生活の場の確保も必要である。</p> | <p>正規就労、工賃倍増5ヵ年計画、余暇時間を活用した創作活動等については、障害者個々の能力や個性、あるいは希望に応じた対応が必要と考えている。</p> <p>ケア会議等を積極的に開催する中で、関係機関との情報の共有やそれぞれの役割等を明確にしながら、障害者のニーズに合わせたサービス提供や必要な支援を行う。</p> <p>今後、就労継続施設や、地域活動支援センター等の受け皿の整備も含め、自立支援協議会等で協議するとともに、正規就労については、今年4月に設置した就労支援ネットワーク会議で具体的に進める。</p> <p>また、就業支援に係る諸制度の周知については、商工会と連携して進める。</p> |
| 5 | <p>障害者の正規就労を目途とした就業移行施設もあるが、利用者の方が一般企業に就職することはなかなか困難な状況である。短期就労でさえ、各企業の理解を得ることが難しいのが現状である。</p> <p>工賃倍増計画で所得を確保したと考えている利用者の気持ちを考えると、現行の制度では心細い感もある。また、行政にも職親制度があると聞いているが、就業支援に係る制度について周知されていないのが実態ではないか。</p> | | |
| 6 | <p>身体障害者療護施設に携わっているが、心配なのは新体系への移行である。当施設は平成22年度に移行を検討しているが、職員がどうなるか、利用者の皆さんが地域に移行した場合の通所手段についても心配である。</p> | <p>石上の園では9割の方が、高館の園でも数名が対象となると聞いたが、地域移行の受け皿の問題や入所者が減少することによる施設経営の問題などの課題が浮き彫りとなった。</p> <p>市ではどういう対応をすべきか。新体系の移行については、きっちりと議論し、成案願いたい。この問題は、時間があるようでない。</p> | <p>施設の新体系移行の課題については、施設側の方針に照らし、サービス体系や必要な受け皿整備等について自立支援協議会等で十分な協議をしたいと考えている。</p> <p>また、今年度が、第2期障害福祉計画の策定の年となっていることから、関係機関との協議を踏まえ、障害者福祉に係る具体的な施策についても成案する(6~9共通)。</p> |
| 7 | <p>高館の園では、4月からプロジェクトチームを結成し、22年度の新体系移行について検討しているが、施設の減収が見込まれており、職員の給与や定数の見直し、利用者に対するサービスの低下、施設利用者の生活環境の維持についても心配である。</p> <p>また、ケアホームなど、障害者が、地域で生活するための受け皿づくりの検討もお願いしたい。</p> | | |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 8 | <p>自立支援法の施行により家族会等で一番大な課題となったのは利用者の1割負担である。</p> <p>年金や工賃から利用料を差し引くととても生活できないとの理由でこれまで3名の方々が施設を退所した。</p> <p>施設を退所しても家族がいる方はよいが、そうでない利用者もある。</p> <p>また、遠野コロニー開設当初から30年間施設を利用している方もあり、入所期間が長い方ほど地域での生活には抵抗があるものとする。</p> <p>地域移行を実際問題どうやって取り組んでいったらよいか分からない。</p> | <p>障害者の地域移行については、利用者においても能力差や環境差もあり、真剣に議論する必要がある。</p> <p>コロニーに30年暮らしている方は、コロニーしか生活の場がないものとする。</p> <p>様々な遊休施設の活用と合わせこれら地域生活のあり方、施設の新体系への移行などの諸課題について、市、法人、関係機関で情報を共有しながら検討するものとする。</p> | |
| 9 | <p>グループホームについては、市内に4カ所あるが、地域生活の場は一般のアパートでもよい。</p> <p>その際には、火災予防等の仕組みづくりも必要となる。</p> | | |
| 10 | <p>宮守町にある地域活動支援センター「わさびっと」は、利用者の日中の余暇活動等を行っており、就労に特化しない幅広い障害者の日中活動の支援を行っている。こうした、わさびっとのような施設を中心市街地の近くに設置することが、障害者の社会参加の意味でも必要とする。</p> | <p>地域活動支援センターの充実についても意見があった。空き施設の再利用の中でなにかよい知恵はないか検討したい。</p> | <p>地域活動支援センターの拡充については、各施設の新体系移行を踏まえ、自立支援協議会や、第2期障害福祉計画の策定時において検討する。</p> <p>なお、就労に特化しない障害者の日中活動については、地域活動支援センターのほかに、地域福祉計画に位置づけている、『遠野型多目的福祉活動拠点』の整備のなかでも進める予定である。</p> |
| 11 | <p>障害者のサービスが1カ所の施設に限定されているため、一般の方々の障害者に対する理解がなかなか進まないものとなっている。</p> <p>例えば、障害者の方々がアパートに住みたいと希望してもなかなか入居できない。また市営住宅についても利用しにくい制度となっている。</p> <p>自立支援協議会がこうした協議をする場として最も適していると思われるが、協議会の動きがよく見えていない。</p> <p>また、障害程度区分認定審査会についても認定結果を見ると障害者をどこまで理解しているか分からない部分もある。審査会の障害程度区分に対するフォローについても検討したい。</p> | <p>自立支援協議会の適正な運用と、障害程度区分認定審査に係るご意見を頂いた。</p> <p>地域自立支援協議会のあり方については、別途、皆さんや法人の理事者等との意見交換の機会を持つこととしたい。</p> | <p>自立支援協議会については、各関係機関の情報の共有を図ることを目的に、今年4月に推進部会を設置した。</p> <p>今後、推進部会を実効的に開催することによって、自立支援協議会の活動が、関係機関や障害者に理解されやすいものとしていく。</p> <p>また、障害程度区分の2次判定の問題については、単純に制度上の課題とはせず、今後、認定審査会の理解を得ながら対応を検討する。</p> |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 12 | <p>今回は3点ほど意見を述べたい。</p> <p>1 工賃倍増5ヵ年計画について 施設利用者の工賃収入の増加に資するため、工賃倍増計画を睦会も策定した。 しかしながら、授産事業として、一般企業と肩をならべて競い合っていくことには限界もあるため、官公需の発注促進についても市も協力してほしい。</p> <p>2 障害者の地域生活の場の確保について 障害者自立支援法により、施設に入所している障害者が障害程度区分が低い地域での生活を余儀なくされる場合も想定される。 そうした地域移行せざるを得ない障害者の受け皿が遠野市では乏しいと考える。 公共施設の転用や清養園の跡地利用など市でも協力を検討願いたい。</p> <p>3 日中一時支援事業について 花巻養護学校遠野分教室の利用者の放課後預かりとして、日中一時支援事業を遠野コロニーで運営させていただいているが、利用者が少ない。 利用者の拡大について市の支援もお願いしたい。</p> | <p>工賃倍増5ヵ年計画に照らした官公需の発注促進の提案、地域生活移行の受け皿の問題、また日中一時支援事業についてご意見を頂戴した。 養護学校の問題についてもご意見の通りである。これについては、少し長い目で見たいと考えている。 周囲や両親の理解も必要である。 また、単年度だけではなく、将来にわたる効果も福祉の場合は視野に入れる必要がある。</p> | <p>障害者の地域移行の受け皿整備については、多様な視点が必要であり、今後、関係機関と十分協議したうえで、来年2月を目途に、自立支援協議会や推進部会で協議し、第2期障害福祉計画の中で成案する。 また、日中一時支援事業についても当市の療育支援事業の中で、効果的に推進していく。</p> |
| 13 | <p>グループホームの整備あたっては、県の官舎の利活用も検討可能である。 なお、通所サービス利用促進事業の継続もお願いしたい。</p> | <p>通所サービス事業を継続するのであれば、県等にも声を出さなければならぬ。 おかしいという意見は、きっちりと国等に伝える必要がある。</p> | <p>通所サービス支援事業の継続については、県主管課長会議を通じて要望している事項となる。 現段階では国の制度の見直し次第となっているが、引き続き機会を捉え、要望していく。 また、公共施設の利活用についても、地域生活支援事業の中で検討を進めることとする。</p> |
| 14 | <p>石上の園で菌床シイタケを栽培しているが、菌床の購入先である市内事業者が撤退するとの情報がある。 このままでは、仕入先を紫波町や岩泉町に代える必要があり、原材料のコスト高が懸念される。市でも検討願いたい。</p> | <p>菌床しいたけについては、産業振興部にも情報を提供しておく。</p> | <p>状況の推移を見ながら、必要があれば関係機関で検討する機会を持つこととする。</p> |

テーマ 福祉 「わたしたちが考える健康づくりとは」

開催日時 平成20年7月10日(木)午後6時45分～8時45分

開催場所 遠野健康福祉の里 栄養指導室

作成者 健康福祉部保健課 主任兼栄養士北湯口美和子

市民出席者（敬称略）

| | 氏名 | 性別 | 町名 | 役職等 |
|----|--------|----|-----|--|
| 1 | 多田 愛子 | 女 | 宮守町 | 遠野市食生活改善推進団体連絡協議会会長(12年度から会員 20年度から会長) |
| 2 | 菊地 セツ子 | 女 | 材木町 | 遠野市食生活改善推進団体連絡協議会副会長(11年度から会員 20年度から副会長) |
| 3 | 菊池 愛子 | 女 | 青笹町 | 遠野市食生活改善推進団体連絡協議会会計(17年度から会員 20年度から会計) |
| 4 | 新田 庄蔵 | 男 | 上郷町 | 20年度元気に楽健康塾受講生 |
| 5 | 松田 勝郎 | 男 | 六日町 | 遠野市運動普及推進員協議会会長(平成9年度設立当時から会長) |
| 6 | 菊池 貞子 | 女 | 青笹町 | 遠野市運動普及推進員協議会副会長(平成18年度設立当時から副会長) |
| 7 | 多田 光男 | 男 | 宮守町 | 遠野市運動普及推進員協議会会員(19年度から会員) |
| 8 | 宮守 典子 | 女 | 綾織町 | 遠野市保健推進委員協議会会長(18年度から会員 20年度から会長) |
| 9 | 佐藤 サヨ子 | 女 | 早瀬町 | 遠野市保健推進委員協議会副会長(18年度から会員 20年度から副会長) |
| 10 | 佐藤 寿子 | 女 | 宮守町 | 遠野市保健推進委員協議会副会長(20年度から会員 20年度から副会長) |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|-----------------------------------|--|
| 1 | 保健推進委員になって初めてのがん検診で、「今年は受診者が多かったね。」と保健師にほめられて嬉しかった。住民に一声かけながら受診票を渡した。みんなで声掛けすれば受診者が増えると思う。 | 受診票の郵送については、合理性を追求するからというのはうまくない。 | 従来の基本健康診査(循環器健診)は、医療制度改革により平成20年度から医療保険者に義務化され「特定健康診査」として新たにスタートした。以前は受診希望を取りまとめ、受診希望者にもみ受診票を保健推進委員経由で配布していた。 平成20年度は「遠野市特定健康診査等実施計画」に基づき、特定健康診査に限り国保被保険者(40～74歳)の方全員に受診券(金券に相当)が発行されるため郵送とした。 ご意見を参考に特定健康診査の受診率(65%)達成に向け対策を検討する。 なお、胃がん検診等のがん検診は従来どおり保健推進委員から受診票の配布となる。 |
| 2 | 毎年若い人の健診受診率が低い。直接会って声がけすれば上がると思う。 特定健康診査の平成24年までの受診率(65%)達成は難しいと思う。今年は受診票が郵送で届いている。 | | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 3 | <p>保健推進委員の任期は2年、1期毎に交代するのは活動に支障がある。</p> <p>検診受診率を上げるには、声かけが必要。市から負担金が出て、自己負担が軽減されていることなど話をすれば納得してくれる。</p> | | <p>保健推進員の再任は可能であり、改選期に各町区長会で説明や願うする。</p> <p>市で負担している検診料金等のPRはもちろん、検診の必要性について啓発し、受診者数の拡大を目指していく。</p> |
| 4 | <p>だしのとり方を普及するだけでも、塩分控えめの食生活改善になり、健康づくりにつながる。まず、家族の食事から見直すことが大切だと思う。</p> <p>鱒沢小学校の学校農園の収穫祭等で子どもたちがイキイキしている。</p> <p>学校農園の大豆を使った豆腐作りに参加していて、子どもたちが、生産から加工まで体験できる食育活動が必要だと感じている。</p> | <p>学校給食事業で、生産者を招いて「遠野の旬を食べよう」ということを行っている。</p> <p>生産者からは、食材が生産されるまでのことを説明していただいている。体験学習の場、学校側との関わりも考えるべき。</p> <p>総合食育センターも食育を考える拠点にできないかと考えている。</p> | <p>体験を通じて子どもたちが感動し関心を持つことも食育だと考える。今後も食育については教育委員会など関係課等との連携により進めていく。</p> <p>食育については、「食べものが育てる元気な遠野っ子事業」として、今後も食生活改善推進団体連絡協議会のみなさんの協力を得ながら進めていく。</p> <p>健康づくりには、食生活や運動の習慣づけが大切である。健康づくりサポーターと連携して、家庭や地域での普及活動を推進する。</p> |
| 5 | <p>地域の食改善講習会を通して、男性の意識を変えるのが困難と感じている。</p> <p>家族で食卓を囲むことや野菜を食べる量が少ないなど、子育て世代の食生活が心配である。親になる若い世代に、私たち(食改推進員)がどう関わっていくかが課題と考えている。</p> | | |
| 6 | <p>料理を覚えたいという気持ちで「うっこの会(食改協)」に入会した。まずは家庭、次に地域で、学んだことを伝えて生きたい。また、健康のために、家族でグラウンドゴルフを行っている。</p> | | |
| 7 | <p>誰にでも続けられる健康づくりとして「天気図式健康カレンダーまたは健康手帳」を作成し、毎日健康チェックする。</p> <p>元気・楽しく体操普及については、宮守町に普及員が足りないと思う。</p> | <p>天気図式健康カレンダー なかなか良いアイデアです。予算がつけばすぐにでも、やれるものから進めていく。</p> | <p>みんなが使えるような健康カレンダーになるよう関係団体等と協議検討する。</p> <p>体操普及員の養成講座(健康塾)を宮守町で開催するなど検討する。</p> |

| | | | |
|----|--|----------------------------------|---|
| 8 | <p>自分にあう運動は何なのか普及活動が必要と思う。 元気・楽しく体操の普及が進まないのが、市民対象の講習会を行うべきだと思う。 町民運動会、雨天の場合中止ではなく延期にすべき。 遠野で統一した種目の運動を普及すべき。例えばミニバレー等、各団体や地域でチーム編成し試合を行う。</p> | <p>元気・楽しく体操など色々な場面で体操をしましょう。</p> | <p>市民対象の講習については、適宜健康相談の場を活用して行う。 雨天時の町民運動会の取扱いについては、各地区で町体協が中心となって決定しているが、日程の都合等により延期は難しい状況であり、ご理解をお願いしたい。 遠野市体育協会では、19種目において市民大会等を行っており、市民が自分にあった運動を選択して参加している。各種目大会について、情報提供を検討する。</p> |
| 9 | <p>午後3時に防災行政無線で元気・楽しく体操の音楽を流して欲しい。 かっぱの会の会員も女性がほとんど、男性にも入ってほしい。せめて講習会などに参加して欲しい。他の委員からの意見、昼間の開催では参加できない。夜の開催が必要 市職員にも元気・楽しく体操を覚えて欲しい。</p> | | <p>防災行政無線は、普及の手段のひとつとして考えるが、遠野テレビの活用も有効であると考えている。 かっぱの会養成講座の開催については、栄養・運動・体操コースが健康塾としてひとつの講座で修了できることが、参加者に好評でこの方法が定着しつつある。今後さらに参加者のニーズに合わせた開催方法について検討していく。 元気・楽しく体操の市職員対象講習会は、毎年4会場で2～10日行うことにより習得している。</p> |
| 10 | <p>地区センター会場の週1回の運動教室（とすぼ）の場を設けて、予算をつけていただいてありがたい。 高齢者の福祉事業でサテライトなどの活動が行き届いていて、若いおばあちゃんたちは活気がある。指導者が若い男性だと特に盛り上がる。世代を超えた交流がいい。</p> | | <p>「とすぼ」では、各地区センターをサテライト校と位置づけ、市内全地域で健康づくりに取り組める環境を整備しています。今後も、メニュー等の充実を図り、市民が参加しやすい環境を整備する。</p> |
| 11 | <p>自分の健康は自分で守る必要性を、健康塾に参加して気がついた。栄養と運動の大切さを学んだ。若いときから健康に関心を持ってもらいたい。 ケーブルテレビを活用した健康情報番組があってもよいのではないかな。</p> | | <p>若い世代への健康づくりに対する動機付けが重要な課題と捉えている。粘り強く啓蒙活動を行っていく。 現在も遠野テレビの健康情報館などを活用しているが、今後とも、より良い内容にするよう努めていく。</p> |
| 12 | <p>「とすぼ」のカレンダーがとていい。 どこで何の教室を開催しているかが分かり、自分の都合に合わせて参加できる。</p> | | <p>今後も、皆様に分かりやすいようなカレンダー等を作成し、多くの方が参加できるようお知らせしていく。</p> |

テーマ 福祉 「高齢者福祉施設等で働く皆さん」

開催日時 平成20年7月16日(水)午後7時～9時20分
 開催場所 「とおの長寿の郷 研修室」
 作成者 健康福祉部長寿課 主任 佐々木 奈央

市民出席者 (敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 住所(町名) | 施設名・役職等 |
|----|-------|----|--------|-----------------------|
| 1 | 菊池 浩之 | 男 | 遠野 | 小規模多機能型介護事業所・GH長寿庵施設長 |
| 2 | 遠藤 利則 | 男 | 陸前高田市 | 遠野長寿の郷生活相談員 |
| 3 | 伊藤 淳子 | 女 | 宮守 | 特養みやもり荘施設長補佐 |
| 4 | 菊池 元司 | 男 | 遠野 | 老健とおの介護支援相談員 |
| 5 | 千葉 明美 | 女 | 宮守 | 老健やまゆりの里介護支援専門員 |
| 6 | 小原 光江 | 女 | 青笹 | GHおらほの家管理者 |
| 7 | 及川 広子 | 女 | 遠野 | 居宅介護支援事業所上郷介護支援専門員 |
| 8 | 菊池 祐子 | 女 | 上郷 | 訪問看護ステーションとおの所長 |
| 9 | 桜井 茂 | 男 | 遠野 | とおめっぶ介護保険相談室介護支援専門員 |
| 10 | 林崎 美緒 | 女 | 上郷 | ヘルパーステーション薬研淵所長 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|---|--|
| 1 | <p>医療保険制度の改正により、病院は入院患者の在宅復帰を積極的に進めているが、在宅での体制が整わない状況のままの退院となっており、すぐに再入院というケースが多い。</p> <p>また、入院して経管栄養になった方などは、家族が経管栄養のやり方がわからない等、退院時の十分な指導がなされていないと感じることから、入院から在宅に戻る際に、医療と連携がとれるような体制を構築してほしい。</p> | <p>医師不足という環境の中で、遠野市としてもさまざまな取り組みをしているが課題は多い。医療との連携について、何かこういうものが良いのでは、という案があれば、皆さんの方から提案いただきたい。</p> | <p>県立遠野病院では、患者家族を対象とした医療処置等に関する定期的な研修会を開催しており、市としてもPRしていく。</p> <p>また、病院を退院するにあたって、病院と家族、介護事業者が情報共有するための「退院調整カード」の作成を試行的に実施しており、これらを含めた支援体制の強化を図っていく。</p> |
| 2 | <p>在宅福祉の充実を図っているとの市の方針に関連してだが、家族が在宅介護で頑張ろうと思っているところに、地域住民や民生委員から「施設に入れたほうが良い」と言われ、施設の利用希望に傾くということがある。</p> <p>地域住民が高齢者を在宅で介護するということについて、十分に理解できていないと感じる。</p> | <p>地域が一つの家族のようになって、地域の高齢者を支えようとの構想。平成18年4月に設置した地域包括支援センターが、必ずしも十分に機能しているとは言いきれない部分がある。民生委員や地域への研修・啓発活動などに取り組んでいきたい。</p> | <p>住みなれた地域で可能な限り在宅での生活を希望する方々へのサービスの充実を推進している。平成20年度からは「人にやさしい住まいづくり事業」として、介護保険の居宅改修費の高上げを実施している。また、民生児童委員研修会の開催等民生児童委員活動との連携及び在宅生活の支援強化に努めていく。</p> |

| | | | |
|---|---|--|---|
| 3 | <p>廃校や遊休施設、空き店舗等を活用し、冬期間に高齢者が入所できるアパートや共同住宅のようなものを整備して、見守りや軽度な援助の提供により、安心した生活を確保できるのではないか。ただし、スタッフの確保ができるかが課題と思われる。</p> | <p>遠野病院の病床が空いているので、それを市として活用できないかと考えているが、遠野病院は県の施設であり、課題が多い。</p> | <p>県立病院の空き病床の活用については、引き続き可能性を模索していく。 また、「高齢者専用住宅」等の整備について、民間活力の活用も視野に入れながら広く検討していく。</p> |
| 4 | <p>八幡地区の市営住宅は、各住宅すべてに必ずお風呂がなければならぬというわけではないと思う。真ん中にみんなが利用できる入浴施設を設置し、そこで食事も提供するなどのサービスが有効ではないか。</p> | <p>地域の方が通うところというのは、八幡住宅の地区には良いかもしれない。</p> | <p>地域のコミュニティセンターと宅老所を合わせたような施設のイメージ。建設課と連携し、整備の可能性を検討していく。</p> |
| 5 | <p>通院が大変な状況なので、往診をしてくれる開業医を主治医にしてはと勤めても、県立病院を受診していないと何かあった時に入院できないと思い込んでいる高齢者がいる。</p> | | <p>県立遠野病院の医師が主治医ではなくとも、必要な時は入院できることについて、ケアマネジャーから周知をお願いする。</p> |
| 6 | <p>利用者がサービスを希望する日時と実際に利用できる日時にアンマッチがあり、事業者の都合次第の状況と感じられることがあり、在宅サービスの体制が十分とは言えないのではないかと感じる。 訪問診療などは特定の対象者のみの事業となっており、在宅医療が市民にまんべんなく行き渡っているとは思えない。</p> | | <p>介護事業者の運営上の問題もあるため、すべての利用者が希望する日時にサービスを利用することは難しいと考えられるが、利用者本位の視点に立って、事業所の体制確保等について働きかけを行っていく。 訪問診療については、地域ケア連絡会議等でケアマネジャーに周知を図り、利用の拡大を図っている。</p> |
| 7 | <p>以前は冬期間に市内医療機関に入院していたが、その医療機関が入院の取扱いをやめたため、冬の行き先として施設入所を希望するという事例がある。 こういったことも施設利用希望が増えている理由の一つではないか。</p> | | <p>施設入所希望が増えている理由の一つとして、今後の事業計画策定の際の参考とさせていただきます（7～9共通）。</p> |
| 8 | <p>ターミナル期を含め、医療依存度の高い方の在宅介護は介護者である家族の負担が大きく、それが施設の利用希望へとつながっていると感じる。また、老老介護や世帯に複数の要介護者がいるなど、在宅での介護が限界に来ている方からの入所希望が多い。</p> | | |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 9 | <p>実際に訪問サービスの利用者は減少してきている。在宅介護は、介護サービスを利用したとしても、生活の中の一部を援助してもらえただけで、家族は365日 24時間の介護を続けなければならない、その負担が多大であることから施設を希望しているのではないか。</p> | | |
| 10 | <p>特別養護老人ホームとしては、点数化により入所の優先度を判断しており、要介護3以上の重度の方を中心に受け入れている。軽度の方を受け入れるところが必要ではないかと感じる。</p> | | <p>軽度の介護度の方のほか、介護保険制度外の要介護の方をも対象とした受入れ施設として、高齢者向け専用住宅など、民間活力の活用も視野に入れながら広く検討していく。</p> |
| 11 | <p>介護予防事業について、住民への周知を図ってほしい。広報に載せるだけでは、高齢者世帯へは周知できない。</p> | | <p>在宅介護支援センターの相談員による介護相談や民生児童委員への研修会、介護予防のパンフレットの作成等、機会を捉えて制度の周知を図っている。</p> |
| 12 | <p>高齢者と家族が安心するための要素は3つあると考えている。身の回りの世話をする人 になにかあった時の医療安全で良好な住環境 これらがそろっているのが施設であり、在宅でこれらをどのように確保していくかが、在宅介護の課題と考える。 これからの高齢者対策というのは、住環境施策が大事になってくるのではないか。</p> | <p>緊急通報・安否確認の事業などは、福祉の里と消防で連携するよう仕組みを改めて取り組んでいる。高齢者の住宅施策についても、建設課などと連携して取り組んでいくことが重要。</p> | <p>介護保険制度及び障害者自立支援制度による住宅改修費の支給に合わせ「高齢者及び障害者にやさしい住まいづくり推進事業補助金」を本年度から実施し、住み慣れた自宅で生活するための住宅改修費の費用負担の軽減を図っている。また、高齢者の住宅施策については、冬期間の住まい対策や独居高齢者の住まい対策などいろいろなケースが想定されることから、今後の住環境について検討する。</p> |
| 13 | <p>例えば生活支援ハウスなど、便利なサービスなのだけれども、対象者要件などから実際には利用しにくいものがある。市の独自基準など、もう少し利用しやすいような配慮が必要ではないか。</p> | <p>保育料は、第3子無料化というこれまでの取り組みを検証した結果、事業の目的達成に繋がっていないということから廃止とし、その財源で全体的な保育料の軽減を図った。高齢者の事業についても、検証して見直しをすることは必要である。</p> | <p>現在、平成21～23年度の第4期介護保険事業計画及び第4次老人保健福祉計画の策定中であり、これまでの各事業の実績の評価をしたうえで、要件についても検討をしていく。</p> |

テーマ 教育 「児童生徒の学力向上と心の教育の充実のための家庭の役割」

開催日時 平成20年7月14日(月)午後7時～8時30分

開催場所 「遠野市立遠野中学校」

作成者 学校教育課 課長 三浦 敦史

市民出席者 (敬称略)

| | 氏 名 | 性 別 | 所 属 | 備 考 |
|----|---------|-----|-----------|-----|
| 1 | 佐々木 邦彦 | 男 | 達魯部小学校PTA | |
| 2 | 菊 池 光 | 男 | 遠野北小学校PTA | |
| 3 | 及 川 聖子 | 女 | 綾織中学校PTA | |
| 4 | 菊 池 美紀子 | 女 | 青笹中学校PTA | |
| 5 | 熊 谷 裕子 | 女 | 宮守中学校PTA | |
| 6 | 河 野 みちえ | 女 | 宮守中学校PTA | |
| 7 | 菅 原 茂 | 男 | 鱒沢小学校PTA | |
| 8 | 佐 藤 学 | 男 | 小友小学校PTA | |
| 9 | 沖 舘 郁夫 | 男 | 土淵小学校PTA | |
| 10 | 昆 明 美 | 女 | 綾織小学校PTA | |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 中学生の場合、部活動があるので、帰宅時間が午後7時頃になり、午後9時頃から勉強を始めている。土日も部活動があり、親子ともに休みがない。学習時間が少ない。 | 家庭での親子の会話が大事と考えているが、今の子どもたちは、忙しいということがわかった。 | 部活動などで忙しい子どもは多いが、家庭学習の時間と学力は必ずしも比例するものではなく、授業に集中できる子は家庭学習が少なくても学習内容を理解しているといった例がある。 家庭学習の中味を充実させることが大事である。 現在、市教育委員会で中学校部活動の適正なあり方について関係者からの意見を聴取し、検討しているところである。 |
| 2 | 小規模校では、「部活動」、「陸上記録会」、「水泳記録会」など一人の生徒に重なることがあり、とても忙しい。 | | |
| 3 | 小学校の成績通知表は、子どもの成績がわかりにくいと思う。子どもの学力がわからず、学力について心配がある。 | | 小学校の通知表は、学習目標に対しての到達状況で成績が表されている。 各学校で配布している「通知表の見方」等の解説や、期末面談等での学校からの説明により、具体的な内容を把握することができる。 |

| | | | |
|---|-------------------------------|--|---|
| 4 | 食育センターを利用して保護者への食育への指導をしてほしい。 | 大変良い意見だと思うので、前向きに考えたい。 | これまでも、食育に関する研修・啓発を行ってきたところであるが、現在計画されている遠野市総合食育センターにおいては、食育の重要性にかんがみ、さらに研修等を充実・発展するようにしていきたい。 |
| 5 | 学校図書館の本が古い。図書館の充実を望む。 | これまでも、図書館の充実を図ってきたところではあるが、それでも不十分なところは、「やまどり号」の利用や市立図書館との連携を図るなど、遠野市としてのネットワークを利用してほしい。 | <p>児童生徒の豊かな心を育むため、図書費については地方交付税措置額を上回る予算を各学校に配当し、県内でも上位の在庫図書を有するとともに、市立図書館の図書を定期的に学校に配置(200冊程度の図書を年4～5回のローテーションで入替)し、図書の充実を図っている。</p> <p>現在、図書館コンピューターネットワークシステムの端末を学校に設置し、市立図書館の図書を借りることができるシステムの導入の検討を行っているほか、継続して図書の購入を進め、学校図書館の充実に一層努めたい。</p> <p>また、鱒沢小については児童クラブへの移動図書館車「やまどり号」の巡回の検討も行っており、子どもたちの読書環境の整備をさらに推進していきたい。</p> |

テーマ 教育 「児童生徒の学力向上と心の教育の充実」

開催日時 平成20年7月15日（火）午後6時30分～8時45分

開催場所 「遠野市立遠野中学校」

作成者 学校教育課 課長 三浦 敦史

市民出席者（敬称略）

| | 氏 名 | 性 別 | 学校名・役職等 | 備 考 |
|---|---------|-----|-------------|-----|
| 1 | 細 川 昭 子 | 女 | 遠野小学校・教諭 | |
| 2 | 瀬 川 美和子 | 女 | 附馬牛小学校・養護教諭 | |
| 3 | 皆 上 聖 一 | 男 | 青笹小学校・教頭 | |
| 4 | 佐々木 明 彦 | 男 | 上郷小学校・教諭 | |
| 5 | 熊 谷 全 信 | 男 | 宮守小学校・教諭 | |
| 6 | 多 田 喜 夫 | 男 | 遠野中学校・教諭 | |
| 7 | 菊 池 ゆかり | 女 | 小友中学校・教諭 | |
| 8 | 菊 池 和 子 | 女 | 上郷中学校・事務主査 | |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|--------------------|--|
| 1 | 校舎前の市道が危険。気をつけて渡るように指導しているが、低学年児童は心配。 | 考えなければならない。 | 校舎前の道路については、第1校庭入口（警察署の裏側に行く道路）までが市道で、それ以降の道路は赤線を一部含めた昔からの通い道の道路上の位置づけになっている。 まず、交通量を把握したいと考えている。 なお、校舎南側で土地区画整理事業を実施しており、この整備において、校舎前（市道以外）道路の機能の付替をし、安全確保を図っていく。 |
| 2 | 児童の半数がバス通学だが、田谷地区のスクールバス乗降所に横断歩道がなく危険。 | 今すぐに対応を考えなければならない。 | 平成20年度の交通安全施設点検で同じ内容の要望があり、警察署、土木センター、市等の職員が現地を確認し、交通量や道路の形状等から危険性が少なく、横断歩道の設置目安を満たしていないとの判断が示されている。 今後も相談があれば要望箇所等を確認しながら関係機関と協議していく。 |
| 3 | 学校集金に苦慮。教職員が督促のために時間を取られている状況。 | 何か工夫ができるのではないか。 | 各学校の状況を把握し、PTA等との連携を図りながら、学校の負担感の軽減について検討していく。 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 4 | 小規模校なので、外部団体会議等への参加で教員が忙しい。 | 団体同士の合同開催など、効率化して負担を軽くできないか。 | 教育委員会主催の会議、研修等は目的の達成が可能な範囲で、開催時間、回数、参加者等の見直しを図っていく。 |
| 5 | 特別支援加配が今年度なくなった。復活させてもらえないか。 | 人数枠の規定はあるが、児童生徒の状況に応じ、ケースバイケースで配置していきたい(課長) | 特別支援加配教員は、配置の有無が年により変化し、また、必要な学校すべてに配置可能な人数でないため、各学校の状況を総合的に検討し、配置していく。 |
| 6 | 特別支援教育支援員の配置があり、大変助かっている。継続して配置をお願いしたい。(4時間配置をもう少し増やせないか) | 子どもの気持ちの安定が、学力向上につながると認識している。支援員の勤務時間をあと1時間増やせないか。 | 各学校の状況を把握したうえで、支援員の配置校や勤務時間、人数など、効果的な配置について検討する。 |
| 7 | 特別支援学級の在籍が多く(7人)情緒障がいの生徒への対応もあり、担任一人では大変。支援員の配置を望む。 | 考える必要がある。 | 既に措置している「児童生徒支援加配」教員の活用状況を確認しながら、効果的な配置について検討する。 |
| 8 | 中生協(中学校生徒会連絡協議会)は数十年の歴史を持つ岩手県内でも例のない貴重な組織である。活動のバックアップをお願いしたい(キャンプや記念誌の発行など)。 | 必ずフォローする。 | 既にキャンプへの移動にスクールバスを活用しており、他にも実施可能なバックアップ体制について検討し、実施する。 |
| 9 | 県立遠野病院に整形外科医がいないことは児童生徒を預かる立場から非常に不安。不在解消を。 | | 県立遠野病院に協力して整形外科医の招へい活動を行い、2年以内に着任希望している医師がいる。医師との間で、具体的な準備など話し合いを進めている。 |
| 10 | 教材備品費の配当について、1校あたり一律20万円では厳しい。2年に一度40万円にするなど、工夫がほしい。 | | 平成20年度の1校あたりの教材備品費は20万円であるが、学校規模も考慮し、20万円を超える場合は別に予算措置をしている。 ここ数年、教材備品費の増額を図っており、今後も各校の希望備品を確認しながら、必要な備品購入に努める。 |

平成20年度 市長と語るう会 「分野別報告書」

テーマ「より良い学校にするために地域がはたす役割」

開催日時 平成20年8月7日(木)午後7時～9時

開催場所 遠野小学校会議室

作成者 教育委員会事務局教務課 補佐 菊池晴夫

市民出席者 (敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 住所(町名) | 所属・役職等 |
|---|-------|----|--------|------------------------------|
| 1 | 菊池映仁 | 男 | 附馬牛町 | 附馬牛町子供を育てる連絡協議会長(スクールワゴン受託者) |
| 2 | 小田島明 | 男 | 上郷町 | スクールガードリーダー |
| 3 | 奥友敏彦 | 男 | 早瀬町 | シルバー人材センター見守り隊隊長 |
| 4 | 菊池和子 | 女 | 青笹町 | 青笹小学校図書ボランティア |
| 5 | 吉田満世 | 女 | 宮守町 | 宮守小学校ブックボランティア |
| 6 | 富松浩昭 | 男 | 小友町 | 小友ベアーズ野球スポーツ少年団指導者 |
| 7 | 菊池ゆかり | 女 | 土淵町 | 遠野一輪車クラブ指導者 |
| 8 | 井手久之 | 男 | 附馬牛町 | 張山しし踊り保存会指導者 |
| 9 | 佐々木文子 | 女 | 早瀬町 | グループわらべ代表 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 地域教育協議会の活動を活発にすれば、学校と地域の連携が図られると思う。 | 私もそう思う。 市民協働の中から子ども達の安全・安心や健全育成を行う仕組みをつくる必要がある。 | 地域が学校を支えているので、共通認識を持って、共に地域の教育力を高めていく。 各町の地域教育協議会の統一テーマ「早ね、早起き、朝ごはん」と定め、学校、家庭、地域の連携を図っていく。 |
| 2 | シルバー人材センター見守り隊への参加者が少ないので困っています。また、運営費が少ないので、支援をお願いしたい。 | 助成については、前にも話を聞いている。 | 見守り隊の方々に対して、児童の下校時における安全確保に対してご支援、ご協力を賜り感謝している。隊員の数や運営費が少ないとのことについて、シルバー人材センターでの対応をお願いしたいと考えているが、消耗品などの物資支援については、市で検討する。 |
| 3 | 児童の下校時に見守り隊が送っていく際に、学校の先生も出てきて見守ってほしい。 | ボランティアの方々との協力を図られるよう協議する。 | 学校に対してボランティアの方々との協力が円滑に図られるよう指導し、改善する。 |

| | | | |
|---|---|--------------|---|
| 4 | もっと学校図書の本がほしい。 | | <p>児童生徒の豊かな心を育むため、図書費については地方交付税措置額を上回る予算を各学校に配当し、県内でも上位の在庫図書を有するとともに、市立図書館の図書を定期的に学校に配置(200冊程度の図書を年4～5回のローテーションで入替)し、図書の充実を図っている。</p> <p>また、各地区センターに、図書検索システムを導入し、市立図書館の図書の貸し出しを行っているほか、試行として学校にもシステムの導入の検討を行っている。今後も継続して図書の購入を進め、学校図書館の充実に一層努める。</p> |
| 5 | 青笹小学校には図書コーナーはあるが、読み聞かせできる部屋がない。ボランティア室の一部を利用しているが、いろいろな備品もあり狭い。 | より良い方法を考えたい。 | ボランティア室にある備品(しし踊りの用具等)を別部屋に整理整頓できる棚を設置し移動させ、ボランティア室に十分な読み聞かせ活動ができるスペースを確保します。 |
| 6 | 「読み聞かせ」や「本の修理」等の活動を行うのに補助金があればいいと思う。 | | 現在も学校図書の修繕や掲示等に必要物品は学校で用意しているが、今後もボランティア活動に必要な物の確保を学校で対応していく。 |
| 7 | 市民センター体育館等中央で活動しているので、遠隔地の子どもへの送り迎えが大変です。 | | スポーツ少年団活動やジュニアスポーツ活動は、保護者の応援が必要となりますので、今後とも協力をお願いする。 |
| 8 | 「昔遊びの伝承」等の活動をするための交通手段の確保が難しい。 遠野広報の「学びのいずみ」のページにグループわらべの紹介も掲載してほしい。 | | <p>依頼主との協議により交通手段の確保が可能と思われる。また、活動内容によっては図書館の協力支援も可能である。</p> <p>遠野広報の学びのいずみに掲載する。</p> |

テーマ 文化 「遠野遺産を活用した地域づくり」

開催日時 平成20年7月28日（月）午後7時～9時00分

開催場所 「あえりあ遠野」

市民センター文化課 課長補佐 小向裕明

作成者 市民センター地域生活課 地域生活係長 多田聖

市民出席者（敬称略）

| | 氏名 | 性別 | 町名 | 所属・役職等 |
|---|--------|----|------|------------------------------|
| 1 | 小松 真 | 男 | 大工町 | 遠野太神楽保存会 |
| 2 | 奥友 満春 | 男 | 綾織町 | 谷地館(八幡様)整備 |
| 3 | 菊池 仙一 | 男 | 小友町 | 山谷観音 |
| 4 | 佐々木 富一 | 男 | 附馬牛町 | 菅原神社の周辺整備 |
| 5 | 菊池 正明 | 男 | 松崎町 | 松崎観音整備 |
| 6 | 菅原 幸広 | 男 | 土淵町 | かっぱ淵と蓮池川水系整備 |
| 7 | 藤原 豊 | 男 | 青笹町 | 青笹しし踊り青年部長 |
| 8 | 田面木 勝美 | 男 | 上郷町 | 日出神社周辺整備 |
| 9 | 菊池 誠志 | 男 | 宮守町 | 上宮守文化振興会事務局長、宮守観音、呼ばれ石、寺沢川溪流 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|--|---|
| 1 | <p>カッパ淵上流での圃場整備では、環境に配慮した工法を要望していたが、三面張りコンクリートの水路となった。前回整備の下流でも事業予定されているので、何とかできないか。カッパ淵という景観や水環境を考えるとミスマッチだ。</p> | <p>ビオトープ、ギンギョも棲む川で注目している。直ちに担当課で経緯等調査して対応する。</p> | <p>平成19年度にコンクリート三面張り整備した区域の下流域については、圃場整備事業地区外なので現状のままとなる。なお、伝承園駐車場側では、景観に配慮した石積み(石積み2面張りで水路底は素堀り)で排水路を今年度中に施工予定である。</p> |
| | <p>蓮池川の小烏瀬川と五日市川の各合流点の段差が大きいので、魚が遡上できるよう魚道を整備してほしい。</p> | | <p>蓮池川の下流部吐口は、圃場整備事業や河川改修事業で2箇所整備した。なお、魚道については、河川管理基準に合致した施設に変更するには相当な事業費になることが見込まれるので、県との協議を進めていく。</p> |
| 2 | <p>福泉寺橋下流では河川整備で人が立ち入りやすくなったが、大柳橋下流の河道掘削では自然が失われ、立木伐採で日陰がなく利用し難くなった。</p> | | <p>河川事業の実施をはじめ、河川の維持管理については各河川の特性を踏まえ、治水、利水及び河川環境に配慮するとともに、地域住民の意見・提言を踏まえ実施するよう県及び関係団体等と連携を図っているところである。</p> |

| | | | |
|---|--|---|--|
| 3 | <p>菅原神社本殿前の神木モミの木が傾いている。倒れると本殿に直撃となる。曳き去りする計画もある。資金に苦慮している。何らかの助成はないか。300万円ぐらいの見積である。遺産関係助成があれば助かる。</p> <p>また、資料にみんなで築くふるさと遠野推進事業補助金での事業があるが、やってみないと幾ら補助されるかわからないと聞くし、どんなものだからよくわからない。補助額が最初からわかれば地元をまとめやすい。</p> | <p>遠野遺産認定物件で、木は神木である。あえりあ遠野のイチョウの例では、空洞部分へ樹脂充填した。樹木医に診断を受ける必要があるので、担当課と相談してみてもいい。</p> | <p>樹木医による樹木診断を実施されたい。その結果により、伐採又は曳き去りを地元で検討して決定する必要がある。</p> <p>この補助事業は、補助限度額は80万円であり、地区センターを申請窓口にして、審査委員会で事業の採否を決定している。</p> <p>関係の要綱や要領を地区センターへ配布しているので、制度活用の相談窓口は地区センターである。</p> |
| 4 | <p>まつりが地域交流を培う。祭りを柱にして、地域のまとまりと交流を図るべきだ。</p> | <p>祭りはキーポイント。祭りを核に交流の場を設けて各年代者を取り込み、世代間交流をすることは良いことだ。</p> | <p>各地域では、みんなで築くふるさと遠野推進事業を活用した祭りに取り組んでいる。また、市は遠野まつり等を主催し、出演の機会を設けている。今後とも郷土芸能を含めた祭りの充実に努める。</p> |
| 5 | <p>各地区で祭り等活動をやっているが、その事前情報がない。遠野遺産活動や祭り等の活動・行事がいつ行われるか情報がほしい。遠野テレビ等で取り上げられないか。他の実践例を参考に、より良い活動を行っていききたい。</p> | <p>遠野テレビ活用を考えなければならない。遠野遺産での活動状況を取り上げるように。情報収集は地区センターを利用したらよいのではないか。</p> | <p>観光協会では、主な年間行事をカレンダーにして配布しているが、事前に日程が確定しているものでないと掲載できていない。早目の日程確定と観光協会への情報提供をお願いする。</p> <p>また、遠野テレビでの情報提供についても取り組んでいく。</p> |
| 6 | <p>日出神社祭り、細越獅子踊り、消防などを2区と3区で行っている。合わせて100戸程度なので、区を統合した方が都合いい。</p> | <p>区の統合により地域が活性化する地区もあると考える。</p> | <p>市では、行政区と自治会との関係、区長の職務の見直し等に併せて、行政区のあり方の検討を始めたところであり、市区長連絡協議会でも検討が行われている。</p> <p>また、住民主権の推進のためには、地域活動を継続的かつ活発に行うことができる規模確保も必要と考えている。</p> |
| 7 | <p>しし踊りのかんながらの製作に苦労している。木工団地の機械利用は考えられないか。</p> <p>また、かんながら材料のヤマナラシは植林している例がある。</p> | <p>木工団地を活用できるか調査する。</p> | <p>木工団地事業体の機械で「かんながら」を製作することは、可能である。ただし、材料は持ち込みをお願いする。</p> <p>手法等を具体的に検討して遠野遺産の保護・活用を図る活動として事業化いただければ、市では財政的に支援する補助制度がある。</p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| 8 | <p>山谷観音の整備を地元で整備してきたが、地元でできないものもある。防火水槽は整備いただいた。駐車場の整備も必要だ。</p> | <p>駐車場は進めているが、農地転用で時間がかかっているが、転用手続きが終われば駐車場はできる。</p> | <p>駐車場予定地は、中山間地域等直接支払山谷集落協定の協定農用地に含まれているので、協定期間中のH17～H21年度までは農地以外への用途変更ができない。 なお、駐車場整備には協定対象から除外し、さらに農業振興地域からの除外や農地転用の手続きをしなければならないので、工事着工は平成22年度以降になる。</p> |
| 9 | <p>遠野遺産寺沢川渓谷では、上流部を整備した。今後は下流部も含めて、遊歩道の整備等に取り組む。 埋もれたものを見直す機会となったことは意義がある。継続をどうしていくか考えていきたい。 上宮守文化振興会の30年の歴史が遠野遺産3箇所 の認定をさせた。</p> | <p>制度の見直しと充実を考える。</p> | <p>これまで実施してきた事業については、概ね補助対応してきた。 事業の継続に対する補助は、特に支障はないと考える。 大いに活動計画を立案し、積極的に制度を活用してほしい。</p> |

テーマ 文化 「郷土芸能と芸術文化の振興のために」

開催日時 平成20年7月30日(水)午後7時～9時

開催場所 あえりあ遠野「やまぼうし」

作成者 市民センター文化課課長補佐 小向裕明

” 社会教育課芸術振興係長 新田正宏

市民出席者 (敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 住所(町名) | 所属・役職等 |
|----|--------|----|--------|-------------------------------|
| 1 | 菊池 仁美 | 女 | 上郷町 | 板沢しし踊り保存会 |
| 2 | 奥寺 徹 | 男 | 中央通り | 一日市南部ばやし保存会 |
| 3 | 佐々木 泰宏 | 男 | 土淵町 | 山口さんさ踊り保存会 |
| 4 | 松田 昭也 | 男 | 小友町 | 鷹鳥屋神楽保存会 |
| 5 | 伊藤 新太郎 | 男 | 宮守町 | 下郷さんさ踊り保存会会長 |
| 6 | 新田 光志 | 男 | 東館町 | 遠野市芸術文化協会事務局長、A・E・L音工房代表(洋楽) |
| 7 | 後藤 正伍 | 男 | 早瀬町 | 遠野市芸術文化協会理事、絵画グループトオヌップ代表(美術) |
| 8 | 汀 八ナ | 女 | 大工町 | 遠野市芸術文化協会理事、日本舞踊遠野若柳吉聖会代表(舞踊) |
| 9 | 吉田 韶子 | 女 | 宮守町 | 遠野市芸術文化協会理事、白扇流白扇会(舞踊) |
| 10 | 鳥屋部 景子 | 女 | 附馬牛町 | 遠野市芸術文化協会事務局、龍生派(華道) |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 学校で郷土芸能に取り組んでいるが、平日日中の指導の際、指導者の勤務先企業へ行政から協力の文書を出してもらえないか。 | | 平日の遠野まつりの際、各企業へ出演者に対する協力依頼を行っているが、平日の指導者への依頼については、学校とも相談して解決策を見出していきたい。 |
| 2 | 鳴り物から消えていく。笛の指導者が高齢のため、笛の継承に難があり、楽譜を作成して子供たちでも演奏できるようにしたい。 勤めで中堅どころが練習にでることができない。踊り手も区内だけでは足りない。 | 注目、感心度の高いところで継承すること、守っていくことにプレッシャー、悩みもあり大変だと思う。 | 楽譜作成は、専門家に作成依頼し作成することも可能である。その際、市の補助事業対象にもなるので、活用されたい。 近年、少子化により保存会会員の区域が広範囲化する傾向にあるが、会員維持に努力していきたい。 |
| 3 | 現在、神楽をやれたのは師匠たちが若かったころに教えられた自分の子供のころのビデオがあるからだ。 映像記録が大事なので、映像記録を残すべきだ。 改まった発表の場として神楽共演会には頑張っ出て演ずるようにしている。会員数が少ないため、地区内の他団体で助け合わなければならない。 | 映像記録は大事だ。 | 市では映像記録の事業を行っているので、記録事業へ参加していただきたい。なお、しっかりした映像を残す必要があり、演目ごとに記録に残すことを考える。 発表の場の確保として、遠野郷神楽共演会、遠野郷しし踊り競演会、遠野市民俗芸能発表会開催に支援しているので、大いに出演していただきたい。 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| | | | 一つの集落で複数の郷土芸能を伝承している集落もいくつかあり、それぞれ頑張っている。伝承活動を継続していただきたい。 |
| 4 | 遠くでの公演の際、大人数での移動に困っている。バスが必要となる。 学校のさんさ踊り指導が平日の昼なので困っている。 子供の人数が少ない。 | | 移動用バスについては、主催者と出演団体の協議により、決めていただいている。 市内の小中学校で行われている郷土芸能の指導は、平日昼の指導が主であるので、学校とも相談して解決策を見出していきたい。 少子化はどここの団体でも同じ問題であるが、少ない人数でも伝統の継承をしていただきたい。 |
| 5 | 子どもたちは、スポーツには一生懸命取り組むが、芸術文化の面では、触れる機会が少ないと思う。学校の道徳の時間などで、生け花など芸術文化に触れる機会を確保できないか。最近、子どもたちの事件が話題になるが、創作活動などを行うことにより心が落ち着く効果もあると思う。 | | 社会教育課が行っている「マナビィクラブ」や地区センターでの各種講座のほか、市民芸術祭などで芸術文化に触れる機会を引き続き確保していく。また、芸術文化協会主催の出前講座を小中学校等にPRし、学校でも取り組んでいるところである。 |
| 6 | 市民センター等で歌や舞踊などの催しがある際は、市で無料バスを出すことはできないか。若い人は、バスや電車も利用できるが、年をとるとなかなか大変である。お年寄りにも、素晴らしい芸術を鑑賞させてあげたい。 | | 多くの方に鑑賞していただくためPRに努めているが、移動については、既存の交通機関や友人らで乗り合わせをしていただくなどしていただきたい。 |
| 7 | 芸術文化にあたっては、好奇心を持つこととよき指導者が大事。多くの人に興味を持ってほしいが、各種イベント等においては、同じ人が取り組んでおり、その他の人をいかに取り込むかが大事である。 | | ご指摘のことは、地域力を高めていくためには大事なことである。今後とも多くの人に参加し活動しやすい環境作りに努めていく。 |
| 8 | サークル単独では、参加者を集めるのが大変であるが、まなびのいずみで市が主催で教室への参加を呼び掛けたところ参加者が増えた。社会教育課等の協力があれば参加者が増え、また、市民の学ぶ機会の確保にもつながる。 | | 「マナビィクラブ」は行政と団体とが一体となり教室等を開催しているもので、これまでの団体からは、会員の増加等にもつながっていると好評である。今後とも協働の理念のもと事業を展開していく。 |
| 9 | 遠野市芸術文化協会では、学校等に出向き、芸術文化を指導する出前講座を実施している。子どもの時に芸術文化に触れることは大事なので、PRをお願いしたい。 | | 小中学校等へは、文書で通知するとともに校長会でもPRしているところであり、今後ともPRに努めるとともに、実施の際には、遠野テレビ等を通じて広く周知していく。 |
| 10 | 遠野市民センターを設立した原点に帰って、市民が集う、文化を発信する施設としてほしい。稼働率を上げるためにも、多いに利用していただく施設にという観点にたってほしい。 | | 市民協働の観点からも市民センターは、市民が集う場所であり、施設の活用にあっても皆さんが利用しやすい環境整備に努めていく。 |
| 11 | 市でコンサート等を実施する際、企画の段階から市民の意見を取り入れ、一緒に取り組むことが大事である。 | | 今後も企画の段階から芸術文化協会の役員等と協議しつつ事業を展開していく。 |

テーマ 交流 「働きやすい遠野市ですか？」誘致企業転入者等

開催日時 平成20年7月22日（火）午後3時～4時30分

開催場所 「あえりあ遠野 語り部」

作成者 産業振興部産業振興課産業振興係長 松田穰司

市民出席者（敬称略）

| | 氏名 | 性別 | 出身 | 会社名・役職等 |
|---|-------------|----|-----|-------------------|
| 1 | 関 健司 | 男 | 横浜市 | 大野ゴム工業(株)遠野工場・工場長 |
| 2 | 箱石 務 | 男 | 山田町 | (株)十辰製作所岩手工場 |
| 3 | 佐藤 規行(のりゆき) | 男 | 仙台市 | 筑波ダイカスト工業(株)遠野工場 |
| 4 | 宮崎 凱亜(がいあ) | 男 | 神戸市 | (株)遠野ファインフーズ |
| 5 | 佐々木 聡 | 男 | 東京都 | (株)プラスプラス遠野開発センター |
| 6 | 菊池 正明 | 男 | 大東町 | (株)ワイ・デー・ケー |
| 7 | 佐々木 望 | 女 | 遠野市 | S M C(株)遠野工場 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|------------------------------|---|
| 1 | 単身者用市営住宅の整備について 社員寮を出たともアパートの家賃は高い。ワンルームタイプでいいので、定額の住宅の整備をしてほしい。 | 単身用市営住宅整備の検討をしたい。 | 現在、遠野市及び関係機関で遊休資産の活用などの具体的な検討を行っている。 |
| 2 | 情報格差（通信インフラ整備）の解消について 通信インフラがまだ弱い。携帯電話が通じないエリアも多いので対処してほしい。 | 携帯電話、地デジ等の通信インフラ格差解消に更に努めたい。 | 携帯電話については、通じない地域を把握し、関係機関(企業)等に要望して、解消に努める。 |
| 3 | 企業間交流会、スポーツ交流の実施について 交流の場が不足している。一企業での取り組みには限界があるので、スポーツ等による企業間交流会等を実施してほしい。 | 若者の出会いの場としても、交流の場の確保に努めたい。 | 地域経済の活性化には、企業間連携が今後ますます重要と考えている。 先般、製造業を中心として遠野ものづくりネットワークが設立されたところである。 商工会主催のスポーツイベントの開催はあるが、更に連携を深めるため、関係機関と協議しながら働く人の交流の機会の創出に努める。 |

| | | | |
|---|---|---------------------|--|
| 4 | <p>医療の確保、充実について 怪我をした際、専門医がいなかったため満足な治療が受けられなかった。生活者の不安を解消できるよう医療の充実をしてほしい。</p> | <p>更に医師確保に努めたい。</p> | <p>県立遠野病院に協力して整形外科医の招へい活動を行い、2年以内に着任希望している医師がいる。医師との間で、具体的な準備など話し合いを進めている。(教育 での回答を再掲)</p> |
| 5 | <p>遠野の人は温かい。 隣人を家族のように接してくれることはうれしいこと。大切にしてほしい。</p> | <p>遠野をPRしてほしい。</p> | <p>企業誘致活動には、支援施策の充実や環境整備ばかりでなく、地域の良さを伝えることが重要と考えている。 遠野市の最大の魅力である自然や心の豊かさを最大限生かしたPRに更に努める。</p> |

平成20年度 市長と語るう会 「分野別報告書」

テーマ 交流 「定住しやすい環境とは」

開催日時 平成20年8月4日(月)午後7時～9時00分

開催場所 「あえりあ遠野2階やまぼうし」

作成者 産業振興部ふるさと定住推進室 主事 紺野友勝

市民出席者 (敬称略)

| | 氏名 | 性別 | 住所(町名) | 職業等 |
|---|------------|----|--------|-------------|
| 1 | 保坂忠晴 | 男 | 土淵町 | 農業 |
| 2 | 奈良邦長 | 男 | 小友町 | 農業 |
| 3 | 田村雄太郎 | 男 | 遠野町 | 無職 |
| 4 | 小竹森正一 | 男 | 宮守町 | 無職 |
| 5 | 小関詞穂 | 女 | 新町 | 会社員 |
| 6 | 相馬まゆみ | 女 | 綾織町 | 訪問看護師 |
| 7 | Bruce Wood | 男 | 綾織町 | 自営 |
| 8 | 相馬海 | 男 | 綾織町 | 綾織中学校1年 |
| 9 | 下弘明 | 男 | 松崎町 | 農業・定住アドバイザー |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|---|---|--|
| 1 | <p>仕事の問題、住居の問題、家族の問題といろいろあるが、行政としては横の連携をどうするかが問題。「で・くらす遠野」と市役所が一生懸命になれるか、雰囲気づくりが必要である。</p> <p>「で・くらす遠野」は直接的なインターフェースとして必要。しかし、まちづくり全体をどう考えるのかも重要。</p> | <p>生活の質、環境を整えることは重要。</p> <p>移住したい環境とは、自然だけでなく、生活の質、仕事が必要だが、整備するにも先立つものがない状況。</p> | <p>定住希望者が移住を考える際は、そのまちづくりが希望者に受け入れられなければならないと考える。</p> <p>「で・くらす遠野」は、横断的な組織として設置したが、まだ十分機能しているとはいえない。今後は、関係各課と連携し、全庁的に取り組む。</p> |
| 2 | <p>団塊の世代には、遠野のような「田舎」は魅力的だが、定住希望者の候補地は仙台以南がほとんど。遠野に居住させるには定住者の口コミが大事。</p> | <p>行政がきめ細かな対応をすることが必要で、生活・仕事の問題は、で・くらす遠野において、官民一体となって取り組んでいるが、もっとケースバイケースでの対応が必要。</p> | <p>生活していく上で必要なものが世代毎に異なっていると考え。</p> <p>可能な限り、移住・定住希望者の状況に応じた対応を心がける。</p> <p>また、行政が行っているサービスについてわか</p> |
| 3 | <p>定住者対策だけでなく、若者の定住対策も必要。</p> | | |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 4 | 移住希望者は、インターネット上で様々な情報交換をしている。世代別に対応を考えるべき。時給 800円ぐらいのパートでは、二人で暮らす分には良いが、将来の生活を考えたときに、不安。 | 仕事や子育て対策、インフラ整備などは横の連携がなくては解決しない。 | りやすい広報活動を行う(2~5共通) |
| 5 | 住んでいる人がずっと住みたい環境でないといけない。 | | |
| 6 | 「老後」というのがひとつのターゲット。「介護」という産業を育成してはどうか。移住してきた人より地元の生活の現実が深刻。企業誘致ばかりではなく、遠野ならではの産業に絞ることはどうか。 | 東京・町田市長と話をしたときに、「東京ではどんどん介護施設を作っても間に合わない。地方でその辺の役割をまかなくてはどうか」という話を聞いた。 若い人を出さないようにすることが大事という意見だが、そうすると「定住推進室」という話ではなく、トータルに考えなければならない。 | 「介護」という視点で産業振興を図るアイデアは、大変参考になる。 遠野市の産業振興策の一つとして、「お年寄りに安心安全なまち」という切り口からも何か出来ないか検討する。 |
| 7 | 農家で寝たきりの方が多い。古い建物などを活用した施設があれば、預けやすくなる。農業が忙しいときに預かってくれる場所があれば農家も助かる。観光しながら、母親を預かってくれるようなことも出来る。そうすればもっと人(観光客・働く人)が来る。 | | |
| 8 | 農業の将来をどう考えるのか。バックアップしてくれるベテラン農家を紹介してくれるシステムがあってもいい。 | | 「で・くらす遠野」では、就農支援は農業活性化本部(アスト)や農業委員会などと連携しながら取り組んでいる。今後、就農タイプに応じた支援体制の構築など皆様のご希望に添えるように取り組んでいく。 |
| 9 | 「永遠の日本のふるさと」をあまり開発して欲しくない。いいものを残しながら生活しやすい環境を作りたい。ターゲットを絞った取り組みを進めて欲しい。 | | 便利になることもある程度必要であるが、行き過ぎた開発は良い事ではない。不便な点は解消しながらも良い所は残す。当市らしいといわれるようなバランスの取れた開発を行うよう取り組む。 |
| 10 | 移住を考える場合、妻の生活スタイルを投げ捨てて移住するのは難しい。 ただし、移住先に女性の活動の場がたくさんあれば、説得しやすい。 | | 当市においては、女性が積極的に活動し、まちづくりに参画している地域もある。市民センターや各地区センター主催のイベント等により、新しいスタイルのサークル活動についても支援していく。 |
| 11 | 遠野を同じパターンで発信し続けることが大切。遠野には、都会生活をやめたいと思う人の受け皿となり得るものがたくさんある。都会で生活している人に対してお金だけで価値を換算していないことも発信して欲しい。 | | 「永遠の日本のふるさと」として「お金」で換算できない価値が遠野にはたくさんあるということ、積極的に情報発信し、さらに遠野ファンの獲得を進める。 |

テーマ 環境 「地域における環境保全活動」

開催日時 平成20年8月1日（金）午後7時～9時15分

開催場所 「上宮守地区多目的集会施設」

作成者 生活環境部環境課 課長補佐 千葉 勝義

市民出席者（敬称略）

| | 氏 名 | 性別 | 町 名 | 役 職 等 |
|----|---------|----|-----|----------------------|
| 1 | 阿 部 啓 悦 | 男 | 宮守町 | 宮守川上流友の会 会長 |
| 2 | 阿 部 義 知 | 男 | 宮守町 | 宮守川上流友の会 事務局長 |
| 3 | 佐々木 康 弘 | 男 | 宮守町 | 宮守川上流友の会 前会長 |
| 4 | 菊 池 清 子 | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 会長 |
| 5 | 阿 部 ハシメ | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 キャップ |
| 6 | 阿 部 タ イ | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 会計 |
| 7 | 阿 部 サ ダ | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 庶務 |
| 8 | 浅 沼 キョウ | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 キャップ |
| 9 | 阿 部 孝 子 | 女 | 宮守町 | 宮守川上流地域環境部会 キャップ |
| 10 | 桶 田 陽 子 | 女 | 宮守町 | 農事組合法人宮守川上流地域生産組合事務局 |

| | 意見・提言の内容 | 市長のコメント | 担当課の意見・回答等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 地域で年2回行っている河川の草刈りの際の保険、燃料等費用について、予算の確保に苦慮している。合併前は衛生連の負担金がなかったが合併したことで発生した。また、合併後は河川清掃の補助金も減った。河川清掃の補助金を早急に交付していただきたい。 | 団体の活動について、仕組みは出来ているので、農村景観をコンセプトに地域の活動を生かしたモデル地域としての取り組みによる事業導入、あるいは上宮守の農村景観を遠野遺産に認定し、環境の保全に取り組んでいくのも1つのやり方である。 合併後のメリット、デメリット、負担金の増による課題、問題提起として受け止める。 | 環境保全団体活動の自立に対する支援策を検討していく。 旧市村の制度の違いはあるが、衛生連の負担金（会費）は有効に活用していく。 補助金に関しては、遠野市環境整備協力会と連携を図りながら進める。 |
| 2 | 地域の交流で絆が深まって最高にいいことだと思っている。顔を合わせる機会が多く、誰を見ても兄弟、親子というような感じである。 | この地域の景観はとても美しく、団体の活動についても、素晴らしいと感じている。「地域の絆が最高だ」という言葉を伺い、それは素晴らしいこと。 | 地域活動を通して、住民相互のつながりを大事にしていく。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 3 | <p>上宮守は、寺沢高原まつり、かかし祭り等を行いながら、ほたるの里としてやっていければと思う。</p> <p>また、ほたるの里としての取り組みをこの地域だけでなく、範囲を広げていきたいと思う。</p> | <p>団体の活動について、仕組みは出来ているので、農村景観をコンセプトに地域の活動を生かしたモデル地域としての取り組みによる事業導入、あるいは上宮守の農村景観を遠野遺産に認定し、環境の保全に取り組んでいくのも1つのやり方である。市内では他に小友町の山谷などで取り組まれている。遠野テレビ等を活用したPR活動を。</p> | <p>希少野生動植物の保護についての関心が高まっており、この保護活動が広がるような手だてを講じていく。</p> <p>この活動を遠野テレビ等を活用してPRを行い、広げていく。</p> |
| 4 | <p>Iターンを決める際、この地域がまとまっていることに良さを感じた。中山間直接支払制度等の事務の窓口をしているが、事務作業が非常に多く大変で、各地でいろんなグループがあっという間活動しているが、事務的な作業を地域でなかなか出来ないこともあるので助成金などせつかくあるものが活用できていないのではと感じている。</p> | <p>地域の活動に支えられているが補助金申請のための事務等の手続きが複雑であるため、この地域をモデルに環境への取り組みについて各地域へ広げていけないが。</p> | <p>自然景観、農村景観等の1つのモデル地区として、各地域に紹介し、影響させて活性化を図り、それが核となるよう、各地域にあったやり方の事業を組み立てていく。</p> <p>事務作業の効率化について、国、県に要望していく。</p> |
| 5 | <p>宮守町にはまだまだ遠野遺産となるところがある。行政にもテコ入れのほうお願いしたい。</p> | <p>上宮守の農村景観を遠野遺産に認定し、環境の保全に取り組んでいくのも1つのやり方である。</p> | <p>遠野遺産になりうる場所等について、今後、調査を行っていく。</p> <p>遠野遺産は、地域づくりの一手法でもあることから、地域のお宝を再発見することを進めていただきたい。</p> |